宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。

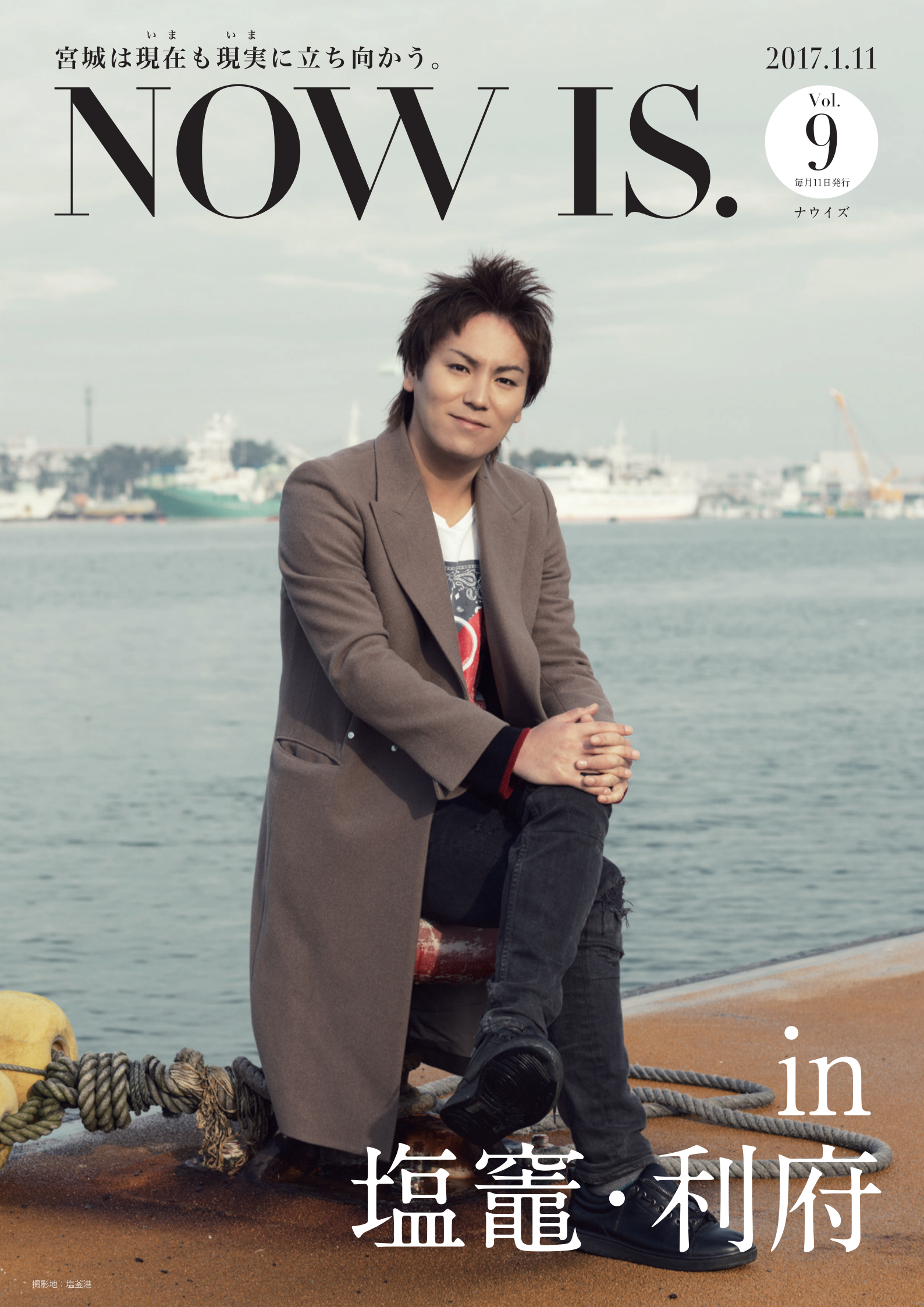
2017.1.11

NOW IS.

Vol. 9

毎月11日発行

ナウイズ



in 塩竈・利府

撮影地：塩釜港

美味しい店、面白い場所、宮城の「楽しい」を発信したい。

新塩竈市魚市場

Island Court（アイランズコート）
「レンタルスペースとしてはもちろん、電源の使えるフリーWi-Fiスポットや、ダッチコーヒーが味わえるカフェとしても利用されています。」と話すオーナーの大津晃一さん。

カキ小屋
冬には旬のカキの食べ放題もあります。

避難デッキ
「マリンゲート塩釜」と周辺商業施設をつなぐ避難デッキ。
津波浸水時も徒歩で避難できるようになりました。

浜田漁港
古くからカキの養殖が盛んに行われている漁師まち。

NOW IS. | Inter-View | SHIOGAMA RIFU 塩竈・利府

「まずは、遊びに来てほしい」狩野英孝さんと塩竈・利府へ。

展望デッキも回れる最新設備の魚市場

季節外れの暖かい一日。お笑い芸人でみやぎ絆大使の狩野英孝さんとの旅は、松島湾を巡る遊覧船や離島への船が発着する海の玄関口「マリンゲート塩釜」からスタートしました。「遊覧船、専門学校時代に友達と乗りに来ました」と感慨深げな狩野さん。今の時期はカキ鍋を囲みながら島巡りできる船もある、という説明に「僕、ロケで船に乗るたびに飛び込むハメになるので、あったかい船内でゆっくり楽しむのもいいですね…」と冬の海を見つめます。

番組で全国各地の魚市場に行ったり、釣りをしたりすることも多いという狩野さん。次は、新塩竈市魚市場に足を運びました。震災で大きな被害を受けましたが、5年がたち、少しずつ新しい市場に生まれ変わっています。平成28年7月には中央棟が完成。延床面積2700平方メートルの4階建ての水産物加工処理場のほか、食堂やキッチンスタジオもあります。「きれい！でかい！魚の匂いがほとんどしない！」と狩野さんは最新の設備に驚きの表情。魚市場の櫻井利和所長の「一般の方がセリを見られるガラス張りの見学スペースや、海を一望できる眺望デッキも設けました」という説明に感心しきり。「塩竈には、多いときで1日1000本以上の生マグロが水揚げされます。セリは朝8時からありますので、ぜひ見に来てください」と櫻井所長。狩野さんは「今までイメージしていた市場と全く違う！清潔感があって驚きました。近くの仲卸市場では買い物もできるし、これは、見学に来たほうがいいですよ。友人に宣伝します」と意気込みました。

何をしていいか迷ったらまずは宮城に行ってみて

港のあとは街中へ。平成28年にオープンしたIslands Court（アイランズコート）を訪れました。

塩竈市の離島である浦戸諸島で復興支援などに携わる「NPO法人浦戸アイランド倶楽部」の活動拠点としてスタートしたコワーキングスペースで、オープンキッチンやホールなどの設備があります。「イベントを開催して料理を提供したり、ネイル教室を開いたり、起業したい人や店を持ちたい人の試行の場として使われているんです」との大津さんの説明に、強くうなずく狩野さん。「僕も、ネタを思いついたときは必ずどこかで試してから本番に挑みます。試してみる、とにかくやってみることは、とても大事だと思っています」。

「やってみること」の大切さは、東日本大震災の直後も感じたと狩野さんは言います。震災当時、狩野さんは東京にいました。ライブや番組の自粛が続き悶々とするなか、芸人仲間と一緒に街頭に立ち募金を呼びかけました。「わからなかったら、とにかくやってみればいいんだと身に染みて感じました。行動を起こしてみると、みんなついてきてくれるんですよ。被災地にいる人がどうしたいのか、何をしてほしいのか、これからも被災者目線でできることを考えて活動できたらいいですね」。

旅の締めくくりは、利府町のカキ小屋へ。水揚げされたカキを洗浄する水槽を見学しました。「宮城にはおいしいものがたくさんありますね。県外の人も、食べに来てほしいなぁ」。

いま、東日本大震災の記憶は人々の心から少しずつ薄れつつあります。「被災した人たちの心の傷が治っていくのは良いことだけど、同じ被害を繰り返さないためにも、まだまだ頑張っている東北のためにも、忘れ去られていくのは怖い。言葉にしたり、文章に書いて発信したり、宮城県出身のタレントとしてできることを地道にやっていきたい。今回、塩竈と利府を歩いて、一層強くそう思いました」。

執筆：沼田佐和子

▼今回訪れたまち▲

塩竈市は、しおがま鹽竈神社の門前町として古くから栄えたまち。生マグロの水揚げは日本有数で、有名寿司店も軒を連ねます。利府町は松島湾に面したまちで、カキの養殖や梨の産地としても知られています。

PROFILE

狩野英孝（かの　えいこう）

1982年、宮城県出身。長髪に白いスーツのホスト風ルックスで人気を博すピン芸人。実家は栗原市の神社で、東日本大震災では鳥居が倒れるなどの被害を受けた。サンドウィッチマンらとともに、チャリティライブや街頭募金活動なども行った。2017年には、自身の経歴をつづった自伝を出版予定。

VOICE of KEY PERSON

貴方が大いに丈夫ならば

01

この人がこの町を盛り上げてます！

未来を担う若者たちと このまちの文化を築きたい。

アートを通じて まちづくりに貢献

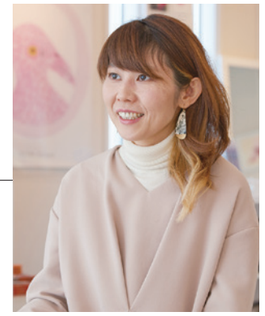
「自分たちの技術やネットワークを活かして、被災地の現場で役に立つことを無我夢中で行いましたね」。まちをアートで元気づけようと、塩竈市出身の高田彩さんは、震災後も精力的に活動しています。

カナダでアートマネージメントを学んだ高田さんは、地元で人とアートが出会う場所を作りたいと、平成18年にビルドフルーガスプロジェクトをスタート。若者がアイディアを交換し、創造力を刺激しあえる「ビルドスペース」というギャラリーを作りました。作品発表の場だけではなく、アーティストの社会性を養い、アートと地域の距離を縮めるため、出張ワークショップやイベントを開催。その活動に塩竈市の職員も賛同し、市の広報ポスターや、まちあるきマップの制作、小中学校でのアートワークショップの実施など、地域コミュニティとの関わり合いを深めていた最中に震災が起こりました。

高田さん自身も被災しましたが、震災直後は交流のあった幼稚園や文化施設、避難所などへ支援物資を届けるとともに子供たちがストレスを発散できるよう、クイズやダンスなどのワークショップの実施や、映画配給会社の協力で上映会を開催してきました。「これからどうなるんだろうと、暗いことを考えてしまうので、必死になることで自分の心のリハビリにもなっていたと思います」。

震災後、塩竈のこれからを考えるようになったという高田さん。「後世に伝え残すべきことは何か、中継地点を生きる私たちがすべきことは何か。それには若い人たちのエネルギーが必要です。形あるものは壊れていくということを目の当たりにした若者たちは、創りだす力が強いと感じています」。高田さんの挑戦は続きます。

「歴史・文化・風土を学び直しながら、アートという多様な入口を用意することで、地域に関わる面白さ、文化づくりの意義を共有できればと思います」。



塩竈市
ビルドフルーガス代表
高田 彩（たかだ あや）さん

「飛びだすビルド！」の
ワークショップ風景

ビルドスペース

内から支えるマンパワー じもと SHIOGAMA RIFU お助け 外からのサポートパワー

NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU NOW IS SHIOGAMA / RIFU

利府町 震災復興推進室
事業推進第二班
石井 健一（いしい けんいち）さん
東京の土木会社を経て
平成25年1月から
宮城県より利府町に派遣

VOICE of KEY PERSON

貴方が大いに丈夫ならば

02

この人がこの町を盛り上げてます！

土木技術者としての経験を利府町のために活かす。

景観重視の設備設計を全国でも珍しい新技術の採用

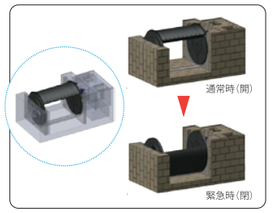
「復興事業に関して、予算があり、施工業者もいるけれど、間でやり取りをする発注業務や監理をする技術者が足りないというニュースを聞いて、土木の技術者として自分の力が役に立つのでは」と、東京で民間の土木会社に勤務していた石井さんは、平成25年1月に宮城県の任期付職員として採用され、利府町に派遣されました。

石井さんの担当は、須賀地区の復興事業。避難道路や避難場所の設置工事、防潮堤や水門の整備工事などを民間業者に発注し、その後の施工監理を行うことなどが主な業務です。避難道路や避難場所は間もなく全てが完成し、防潮堤と水門は現在整備中です。

水門に関しては民間業者に発注するまで、超えるべきハードルがたくさんありました。「須賀漁港は特別名勝である松島に隣接しているので、景観を阻害しない水門を作る必要があります。文化財保護法や海岸法などをクリアした上での発注なので、時間がかかり苦労しました」。水門のゲートには、新技術の「ライジングセクターゲート」を採用しています。従来は水門を上下に動かして開閉しますが、水門を回転して開閉する仕組みのため、景観をできるだけ阻害しないよう高さを低く設計できます。全国に約10カ所しかなく、主に河川やダムに採用されており、津波対策としての採用は利府町が初めてです。「設計はもちろんですが、使用するゲートの材質や色も景観に溶け込むようにさまざまな配慮を施しています。技術者として、本当にやりがいのある業務です」。水門の完成は平成31年3月を予定しています。

石井さんの任期は平成29年3月まで。「残り少ない任期ですが、スムーズに事業が進むよう引き継ぎ業務も含めて取り組みます。土木の技術者として、貴重な経験になりました」。

須賀地区復興事業構想図



ライジングセクターゲート開閉イメージ

Newspaper 塩竈市 Pick-Up

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。

魚市場の早期再開を目指して

2011.3.20

平成23年3月20日の記事には、震災後いち早く再開に向け動き始めた『塩竈市魚市場』の様子が掲載されました。前日に行われた一斉清掃には、卸売業者、仲買人、塩釜水産物仲卸市場の小売業者ら約200人が参加。土砂をかき集め、高圧洗浄機で荷さばき場を水洗いしました。

塩竈市は、本土地区で市域面積の約22％が浸水したものの、魚市場は比較的被害が少なかったため、震災後約1週間で、一部を除き水揚げが可能な状態になりました。「漁業者や消費者のためにも、早期復旧を目指す。マグロ以外の魚種も受け入れ、三陸の魚を県内、全国に運びたい」という卸売業者の言葉からも、早期再開に向けた強い意気込みが感じられます。

建て替え工事が進む魚市場

2016.6.6

老朽化と震災被害のため、建て替え工事が進む『塩竈市魚市場』。平成28年11月6日の記事には、同年10月末に完成した魚市場南棟「I期」で、完成後初の水揚げに沸いたニュースが掲載されました。主に生鮮マグロの荷さばきと出荷の拠点となる建物の内部では、マグロをシートの上に乗せて運ぶなど、高度衛生管理を徹底。高値で取引されたマグロは、「三陸塩竈ひがしもの」として出荷されました。

南棟「I期」は鉄筋コンクリート一部鉄骨3階建て。平成29年秋までには南棟全体が完成し、すでに完成している東棟と、食堂や地魚販売所などを備えた複合施設の中央棟と合わせて、新魚市場が全面オープンする予定です。

© 河北新報社　※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。

AR で見る 定点観測

look at Miyagi

現在の利府町

撮影地 浜田漁港

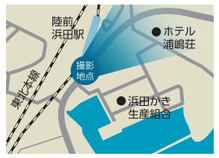
宮城県中部、仙台市の北東に隣接する利府町。海に面した浜田・須賀地区で多くの住宅が津波浸水被害を受けました。

現在、浜田・須賀地区では、避難道路・避難施設の整備工事、また、漁港では防潮堤・水門の整備工事を行い、安全で安心なまちづくりを目指し復興事業が進んでいます。

被災直後の浜田漁港

無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在（平成28年12月）の利府町の様子がご覧いただけます。

COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から
COCOAR2に対応していない端末もございます。



（浜田漁港）

震災前の利府町

（写真提供：利府町）

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

TOPICS 1

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

NEWS 01 みやぎの復興まちづくりパネル展を開催しています

県では、東日本大震災の記憶の風化防止とこれまでの沿岸市町へのご支援に対する感謝の気持ちを込め、「みやぎの復興まちづくりパネル展」を県内はもちろん、東京都庁など県外においても開催しています。

1月は、大崎市の「あ・ら・伊達な道の駅」を会場に開催します。

今年も県内外でのパネル展を企画しています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

日時／1月16日（月）から1月31日（火）
7時半～18時
場所／あ・ら・伊達な道の駅スパイラルホール
（大崎市岩出山池月字下宮道下4-1）
問.県復興まちづくり推進室 ☎.022-211-3207
http://www.pref.miyagi.jp/site/fukkopanel/

NEWS 02 みなと塩竈の味覚が大集合 第28回「塩竈の醍醐味」

塩釜港旅客ターミナルである「マリンゲート塩釜」は、津波により被災したものの、平成24年に復旧工事が終了し、にぎわいを取り戻しています。塩竈の魅力を多くの方に発信するため、マグロの解体ショーや重量当てクイズ、地元産の焼きガキや魚介類の炭火焼きなどのイベントを開催します。

日時／2月25日（土）、26日（日）10時～16時予定
場所／マリンゲート塩釜
問.マリンゲート塩釜事業振興会
☎.022-361-1500

NEWS 03 3.11 POWER of LIFE in SHIOGAMA MIYAGI

Dragon AshのATSUSHIさんが発起人である「（一社）POWER of LIFE」は、被災地での支援や交流を続けています。亡くなられた方々への追悼の想い、被災地の方々に心あたたまるひとときを届けたいと、今年も「3・11 POWER of LIFE in SHIOGAMA MIYAGI」を開催します。「皆の集いの場」になればという願いを込めてライブなどを予定しています。

日時／3月11日（土）18時開場 18時半～21時半予定
場所／ふれあいエスプ塩竈
問.一般社団法人POWER of LIFE
✉.info@poweroflife.jp

TOPICS 2

NOW IS./ MIYAGI MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

ＳＮＳでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

@塩釜港（塩竈市）[2016/12/1]

各SNSの検索窓で　いまを発信！復興みやぎ　検索

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS.取材チームによるブログで情報を発信します。

みやぎ復興情報ポータルサイト　http://www.fukkomiyagi.jp

TOPICS 3

明日への取り組み：むすび塾

河北新報 防災・減災 巡回ワークショップ

「最後の世代」として震災を語り継ぐことを誓う

平成28年12月18日の「むすび塾」は、初めて宮城県内の高校生を対象に開催されました。震災当時小学校4～6年生だった生徒6名が東松島市の被災地を訪れました。

高校生6名のうち2名は、震災の「語り部」として活動をしています。石巻西高等学校の女子生徒は、多くの人が津波に流される様子を目撃した同市旧野蒜小学校の体育館跡地で体験談を披露し、自宅跡では津波の犠牲になった祖父への思いと命の大切さ、教訓を語りました。大曲小学校では石巻高等学校の男子生徒が、津波が押し寄せた際に避難者を助けられなかった無念さを打ち明け、「犠牲を繰り返さないために語り続けたい」と伝承の意義を強調しました。

石巻市で行われた視察後の語り合いは、震災伝承がテーマ。11月の福島県沖地震で津波警報が出たとき、避難する人が少なかったことから風化を懸念する声が上がりました。参加した高校生は、被災体験を自分の言葉で説明できる最後の世代と考えられています。発信する機会を広げていくとともに「広島が平和を学ぶ場になっているように、宮城も震災の教訓を世界に伝える場となれたらいい」と、自らの役目を再認識しました。コメンテーターとして参加した和光大学の制野俊弘准教授は、「被災地では“風化”と言うが、被災地以外の現実はむしろ“無関心”。その現実に戦いを挑まないと、被災地の実相は伝わらない」と一層の奮起を促しました。

震災の教訓を広げ、命の大切さを伝えることは、いじめの抑止などにもつながると期待されています。若い世代が震災を語り、広くつながる機会を提供していくことが、いま求められています。

むすび塾とは

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社が開催する巡回ワークショップ。「いのちと地域を守る」キャンペーンの一環として、平成24年5月から月1回、町内会や学校、企業などで開催し、平成28年12月で通算62回目となりました。

目的は、対談を通して震災時の教訓や減災・防災への備えを、あらためて考え直すこと。

ワークショップの様子は、河北新報紙面でも公開し、防災や復興への行動を後押ししています。

今までの「むすび塾」の記事は河北新報社のwebサイトでご覧いただけます。

http://www.kahoku.co.jp/special/bousai/

STAFF'S VOiCE 取材こぼれ話

編集後記

狩野さんが感激した塩竈市の新しい魚市場。来年中には、見学者や観光客の受け入れも本格的に始まり、まちの新たな見どころになることが期待されています。魚市場を見学したあと、ぜひ足を運びたいのが「塩釜水産物仲卸市場」。鮮魚や加工品などを扱う115店が軒を連ね、観光客はもちろん、近隣の食のプロがこぞって訪れるスポットです。この市場の名物が「マイ海鮮丼コーナー」。食堂で購入したごはんの上に、市場で購入した魚介を自由にのせて、味わうことができるんです。ひと味違った旅の思い出になること、間違いなし。三陸の幸を市場で楽しんでください。

仲卸市場で出会ったマグロ。
この後解体が見学できました。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む） 10,554人 | 行方不明者数 1,234人　平成28年11月30日現在 宮城県危機対策課調べ

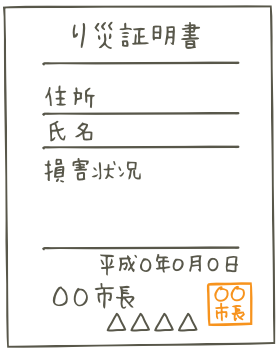
NOW IS. 防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme 9 生活再建

**まちが復興に向けて歩み始め、自身の生活再建に踏み出す時。
まず何から始めたらいいのか、どんなサポートや補償があるのか。
もしもの時に少しでも不安を小さくするために。
いろいろな手続きや制度、心構えを頭に入れておきましょう。**

り災証明書



生活再建の第一歩！ り災証明書を申請しよう

り災証明書とは、住宅の被災状況を公的に認める証明書のこと。全壊・半壊など、4つの認定区分に分けられます。被災者支援制度や保険金の給付を受ける時に必要になるので、被災したら取得の手続きを忘れずに。

保険

万一のために加入！ 保険を活用しよう

被災したら保険会社に連絡をして、補償範囲や手続きに必要なものを確認しましょう。火災のほか風水害などの損害も補償する火災保険や、地震による建物・家財の損害を補償する地震保険が有効です。

支援制度

住宅再建に復職・復学 困った時のための支援制度

住宅再建には、被災者生活再建支援制度や応急修理制度を活用して、資金を確保。また、失業した場合はハローワーク、学費に困った時は、日本学生支援機構の緊急・応急採用奨学金など、支援制度を活用しましょう。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所　佐藤 翔輔 助教

防災コラム Vol.9

★豊かにしよう！生活再建7要素

★できるだけ自立への道を考えよう！

★情報のアンテナは敏感に！

【すまい】・【つながり】・【まち】・【こころとからだ】・【そなえ】・【くらしむき】・【行政とのかかわり】の「生活再建7要素」。この7要素それぞれを豊かにしていくことが、生活再建では大切になってきます。また、できるだけ早く避難所から出て自立できるように努めることや、自分の力で必要な情報を集めることも、よりスムーズに生活を立て直すことにつながります。

佐藤 翔輔 助教
東北大学災害科学国際研究所

情報管理・社会連携部門。被災者の生活再建、災害時の情報、災害の伝承のほか、「みんなの防災手帳」などの啓発ツールの開発に携わる。

NOW IS. vol.9 ナウイズ
昨年度までの「みやぎ復興プレス」をリニューアルしました。

発行：平成29年1月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県
Miyagi Prefectural Government